

県道内津勝川線周辺の古墳

標高約24～86mの段丘や丘陵に立地しています。北東から南西へ緩やかに傾斜する地形を形成しています。



1 八事神明社古墳

(八事町2-55)

築造時期：不明
墳形：円墳
直径：30m
出土遺物：円筒埴輪



墳丘の上には神明社が建てられています。平成9年に測量を行いました。葺石等は確認されていません。かつて土師質の円筒埴輪片が採集されたとの記録があります。

2 オセンゲ古墳

(大泉寺町字山畑1038)

築造時期：不明
墳形：円墳
直径：約42m
出土遺物：須恵器



平成4年に発掘調査を行い、墳丘は2段築成で、全体に葺石が施されていることが確認されました。墳丘規模や築造様式が近似する出川大塚古墳(滅失)が同一丘陵上の北東方向に所在していました。

3 オフジ古墳

(大泉寺町字山畑1010)

築造時期：不明
墳形：円墳
直径：18m
出土遺物：不明



平成14年に測量を行いました。段築や周溝、葺石は未確認であり、埴輪も出土していません。北城老人憩いの家に隣接して所在しています。

4 富士社古墳

(東神明町706-1)

築造時期：不明
墳形：円墳
直径：40m
出土遺物：不明



墳丘の上には富士社が建てられています。平成9年に測量を行いました。葺石や埴輪といった古墳に関連する遺物や周溝は確認されていません。

◎ 出川大塚古墳 (滅失)

(不二ガ丘3-100-10)

築造時期：4世紀後半
墳形：円墳
直径：45m
出土遺物：三角縁神獸鏡(2面)・擬銘帯四神



四獣鏡・振文鏡・勾玉・管玉・石釧

明治33・35年の土取りの際に多くの遺物が発見されたとの記録があります。昭和37年に測量を行い、墳丘は2段築成で、葺石が施されていたことが確認されました。出土品は現在、東京国立博物館に保管されています。